

**【表紙】**

【提出書類】	半期報告書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2021年12月2日提出
【計算期間】	第22期中(自 2021年3月9日至 2021年9月8日)
【ファンド名】	三井住友・年金プラン30 三井住友・年金プラン50 三井住友・年金プラン70
【発行者名】	三井住友D Sアセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 猿田 隆
【本店の所在の場所】	東京都港区虎ノ門一丁目17番1号
【事務連絡者氏名】	土屋 裕子
【連絡場所】	東京都港区虎ノ門一丁目17番1号
【電話番号】	03-6205-1649
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

## 1【ファンドの運用状況】

## (1)【投資状況】

## 三井住友・年金プラン30

2021年9月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	2,349,243,489	99.66
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	8,099,081	0.34
合計（純資産総額）		2,357,342,570	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。以下同じ。

## 三井住友・年金プラン50

2021年9月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	3,372,930,962	99.43
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	19,359,361	0.57
合計（純資産総額）		3,392,290,323	100.00

## 三井住友・年金プラン70

2021年9月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	2,392,953,732	99.46
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	12,997,247	0.54
合計（純資産総額）		2,405,950,979	100.00

## (2)【運用実績】

## 【純資産の推移】

## 三井住友・年金プラン30

年月日	純資産総額 (円)		1万口当たりの 純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第12期 (2012年 3月 6日)	1,859,980,494	1,859,980,494	10,200	10,200
第13期 (2013年 3月 6日)	1,515,025,944	1,515,025,944	11,218	11,218
第14期 (2014年 3月 6日)	1,536,378,137	1,536,378,137	12,317	12,317
第15期 (2015年 3月 6日)	1,755,560,244	1,755,560,244	13,557	13,557

第16期 (2016年 3月 7日)	1,771,671,925	1,771,671,925	13,396	13,396
第17期 (2017年 3月 6日)	1,848,362,284	1,848,362,284	13,871	13,871
第18期 (2018年 3月 6日)	2,013,799,098	2,013,799,098	14,403	14,403
第19期 (2019年 3月 6日)	2,045,258,288	2,045,258,288	14,318	14,318
第20期 (2020年 3月 6日)	2,039,129,760	2,039,129,760	14,302	14,302
第21期 (2021年 3月 8日)	2,211,437,934	2,211,437,934	15,355	15,355
2020年 9月末日	2,107,837,852	-	14,691	-
10月末日	2,094,066,099	-	14,548	-
11月末日	2,162,984,779	-	15,067	-
12月末日	2,188,200,012	-	15,233	-
2021年 1月末日	2,184,320,041	-	15,205	-
2月末日	2,185,973,174	-	15,271	-
3月末日	2,251,673,047	-	15,614	-
4月末日	2,266,002,633	-	15,712	-
5月末日	2,263,699,959	-	15,830	-
6月末日	2,297,586,296	-	15,973	-
7月末日	2,312,892,147	-	15,988	-
8月末日	2,343,749,304	-	16,164	-
9月末日	2,357,342,570	-	16,197	-

## 三井住友・年金プラン50

年月日	純資産総額 (円)		1万口当たりの 純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第12期 (2012年 3月 6日)	4,560,278,885	4,560,278,885	9,070	9,070
第13期 (2013年 3月 6日)	3,819,896,918	3,819,896,918	10,345	10,345
第14期 (2014年 3月 6日)	3,327,825,014	3,327,825,014	11,822	11,822
第15期 (2015年 3月 6日)	3,031,228,978	3,031,228,978	13,524	13,524
第16期 (2016年 3月 7日)	2,222,369,862	2,222,369,862	12,906	12,906
第17期 (2017年 3月 6日)	2,410,905,640	2,410,905,640	13,765	13,765
第18期 (2018年 3月 6日)	2,697,594,506	2,697,594,506	14,614	14,614
第19期 (2019年 3月 6日)	2,644,535,736	2,644,535,736	14,415	14,415
第20期 (2020年 3月 6日)	2,682,091,075	2,682,091,075	14,229	14,229
第21期 (2021年 3月 8日)	3,120,984,816	3,120,984,816	16,188	16,188
2020年 9月末日	2,849,084,564	-	15,012	-
10月末日	2,817,173,478	-	14,807	-
11月末日	2,982,916,306	-	15,665	-
12月末日	3,053,663,923	-	15,939	-
2021年 1月末日	3,051,855,838	-	15,922	-
2月末日	3,088,723,713	-	16,102	-
3月末日	3,189,927,394	-	16,611	-
4月末日	3,206,504,094	-	16,754	-
5月末日	3,240,561,683	-	16,940	-
6月末日	3,295,711,319	-	17,193	-

7月末日	3,303,152,204	-	17,164	-
8月末日	3,364,905,316	-	17,482	-
9月末日	3,392,290,323	-	17,595	-

## 三井住友・年金プラン70

年月日	純資産総額 (円)		1万口当たりの 純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第12期 (2012年 3月 6日)	4,392,083,689	4,392,083,689	7,829	7,829
第13期 (2013年 3月 6日)	5,214,552,207	5,214,552,207	9,250	9,250
第14期 (2014年 3月 6日)	4,455,471,559	4,455,471,559	11,040	11,040
第15期 (2015年 3月 6日)	3,266,521,001	3,266,521,001	13,113	13,113
第16期 (2016年 3月 7日)	1,434,685,152	1,434,685,152	12,019	12,019
第17期 (2017年 3月 6日)	1,597,214,751	1,597,214,751	13,186	13,186
第18期 (2018年 3月 6日)	1,733,343,983	1,733,343,983	14,312	14,312
第19期 (2019年 3月 6日)	1,707,541,506	1,707,541,506	13,964	13,964
第20期 (2020年 3月 6日)	1,648,696,631	1,648,696,631	13,596	13,596
第21期 (2021年 3月 8日)	2,067,684,136	2,067,684,136	16,368	16,368
2020年 9月末日	1,836,635,543	-	14,717	-
10月末日	1,812,724,309	-	14,458	-
11月末日	1,949,279,985	-	15,629	-
12月末日	2,014,738,376	-	16,002	-
2021年 1月末日	2,012,394,593	-	15,991	-
2月末日	2,062,769,990	-	16,282	-
3月末日	2,152,349,747	-	16,947	-
4月末日	2,194,849,613	-	17,117	-
5月末日	2,234,883,540	-	17,371	-
6月末日	2,289,616,551	-	17,725	-
7月末日	2,282,217,166	-	17,641	-
8月末日	2,353,915,713	-	18,095	-
9月末日	2,405,950,979	-	18,306	-

## 【分配の推移】

## 三井住友・年金プラン30

	計算期間	1万口当たり分配金(円)
第12期	2011年 3月 8日～2012年 3月 6日	-
第13期	2012年 3月 7日～2013年 3月 6日	-
第14期	2013年 3月 7日～2014年 3月 6日	-
第15期	2014年 3月 7日～2015年 3月 6日	-
第16期	2015年 3月 7日～2016年 3月 7日	-
第17期	2016年 3月 8日～2017年 3月 6日	-
第18期	2017年 3月 7日～2018年 3月 6日	-

第19期	2018年 3月 7日～2019年 3月 6日	-
第20期	2019年 3月 7日～2020年 3月 6日	-
第21期	2020年 3月 7日～2021年 3月 8日	-

## 三井住友・年金プラン50

	計算期間	1万口当たり分配金(円)
第12期	2011年 3月 8日～2012年 3月 6日	-
第13期	2012年 3月 7日～2013年 3月 6日	-
第14期	2013年 3月 7日～2014年 3月 6日	-
第15期	2014年 3月 7日～2015年 3月 6日	-
第16期	2015年 3月 7日～2016年 3月 7日	-
第17期	2016年 3月 8日～2017年 3月 6日	-
第18期	2017年 3月 7日～2018年 3月 6日	-
第19期	2018年 3月 7日～2019年 3月 6日	-
第20期	2019年 3月 7日～2020年 3月 6日	-
第21期	2020年 3月 7日～2021年 3月 8日	-

## 三井住友・年金プラン70

	計算期間	1万口当たり分配金(円)
第12期	2011年 3月 8日～2012年 3月 6日	-
第13期	2012年 3月 7日～2013年 3月 6日	-
第14期	2013年 3月 7日～2014年 3月 6日	-
第15期	2014年 3月 7日～2015年 3月 6日	-
第16期	2015年 3月 7日～2016年 3月 7日	-
第17期	2016年 3月 8日～2017年 3月 6日	-
第18期	2017年 3月 7日～2018年 3月 6日	-
第19期	2018年 3月 7日～2019年 3月 6日	-
第20期	2019年 3月 7日～2020年 3月 6日	-
第21期	2020年 3月 7日～2021年 3月 8日	-

## 【収益率の推移】

## 三井住友・年金プラン30

	収益率(%)
第12期	0.8
第13期	10.0
第14期	9.8
第15期	10.1
第16期	1.2
第17期	3.5
第18期	3.8

第19期	0.6
第20期	0.1
第21期	7.4
第22期（中間期）	6.6

（注）収益率とは、計算期間末の分配付基準価額から前期末分配落基準価額を控除した額を前期末分配落基準価額で除したものをいいます。

#### 三井住友・年金プラン50

	収益率（％）
第12期	3.5
第13期	14.1
第14期	14.3
第15期	14.4
第16期	4.6
第17期	6.7
第18期	6.2
第19期	1.4
第20期	1.3
第21期	13.8
第22期（中間期）	10.4

（注）収益率とは、計算期間末の分配付基準価額から前期末分配落基準価額を控除した額を前期末分配落基準価額で除したものをいいます。

#### 三井住友・年金プラン70

	収益率（％）
第12期	6.5
第13期	18.2
第14期	19.4
第15期	18.8
第16期	8.3
第17期	9.7
第18期	8.5
第19期	2.4
第20期	2.6
第21期	20.4
第22期（中間期）	14.2

（注）収益率とは、計算期間末の分配付基準価額から前期末分配落基準価額を控除した額を前期末分配落基準価額で除したものをいいます。

（参考）

## ( 1 ) 投資状況

## 国内株式マザーファンド（B号）

2021年9月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
株式	日本	2,769,116,760	97.39
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	74,210,027	2.61
合計（純資産総額）		2,843,326,787	100.00

## 国内債券マザーファンド（B号）

2021年9月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
国債証券	日本	141,198,086,135	68.18
地方債証券	日本	6,114,192,500	2.95
特殊債券	日本	15,895,456,572	7.68
社債券	日本	38,218,542,300	18.45
	アメリカ	2,294,550,000	1.11
	フランス	1,998,780,000	0.97
	小計	42,511,872,300	20.53
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	1,387,272,907	0.66
合計（純資産総額）		207,106,880,414	100.00

## 外国株式マザーファンド（B号）

2021年9月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
株式	アメリカ	1,129,440,559	74.91
	フランス	83,786,025	5.56
	スイス	56,954,213	3.78
	アイルランド	39,202,732	2.60
	香港	35,841,718	2.38
	イギリス	35,338,771	2.34
	オランダ	30,096,360	2.00
	スペイン	20,769,038	1.38
	オーストリア	15,541,060	1.03
	ドイツ	13,575,585	0.90
	オーストラリア	9,938,024	0.66
	小計	1,470,484,085	97.53
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	37,237,910	2.47
合計（純資産総額）		1,507,721,995	100.00

その他以下の取引を行っております。

種類	買建 売建	国/地域	時価合計（円）	投資比率 (%)
為替予約取引	買建	日本	28,505,269	1.89

## 外国債券マザーファンド（B号）

2021年9月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
国債証券	アメリカ	368,489,504	46.16
	フランス	169,806,091	21.27
	スペイン	98,455,761	12.33
	イギリス	47,771,002	5.98
	ドイツ	42,879,681	5.37
	オーストラリア	13,824,596	1.73
	カナダ	8,702,058	1.09
	ベルギー	8,689,296	1.09
	シンガポール	6,361,622	0.80
	ポーランド	5,414,744	0.68
	イスラエル	3,795,356	0.48
	スウェーデン	2,229,679	0.28
	ノルウェー	1,604,268	0.20
	小計	778,023,658	97.46
地方債証券	カナダ	7,066,527	0.89
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	13,172,254	1.65
合計（純資産総額）		798,262,439	100.00

その他以下の取引を行っております。

種類	買建 売建	国/地域	時価合計（円）	投資比率 (%)
為替予約取引	売建	日本	7,799,313	0.98
為替予約取引	買建	日本	32,223,516	4.04



## 2【設定及び解約の実績】

## 三井住友・年金プラン30

	設定口数(口)	解約口数(口)
第12期	163,374,614	1,001,050,146
第13期	158,135,004	631,074,206
第14期	154,154,301	257,418,645
第15期	135,775,532	88,174,227
第16期	139,005,178	111,404,298
第17期	134,352,032	124,342,221
第18期	211,907,256	146,227,254
第19期	148,009,301	117,745,944
第20期	135,308,032	138,025,610
第21期	161,597,974	147,157,429
第22期(中間期)	66,449,680	59,378,379

(注)本邦外における設定および解約の実績はありません。

## 三井住友・年金プラン50

	設定口数(口)	解約口数(口)
第12期	224,151,094	180,281,710
第13期	209,134,099	1,544,242,649
第14期	208,281,621	1,086,089,579
第15期	188,224,326	761,765,452
第16期	181,030,436	700,309,817
第17期	170,208,563	140,776,156
第18期	264,952,249	170,517,137
第19期	181,101,223	192,379,447
第20期	194,619,894	144,297,119
第21期	190,066,722	147,051,653
第22期(中間期)	86,459,862	91,713,674

(注)本邦外における設定および解約の実績はありません。

## 三井住友・年金プラン70

	設定口数(口)	解約口数(口)
第12期	186,225,504	158,448,491
第13期	151,638,301	124,501,690
第14期	171,481,324	1,772,977,715
第15期	156,359,561	1,701,082,298
第16期	181,433,346	1,478,689,093
第17期	128,930,035	111,309,327
第18期	175,808,339	176,059,296
第19期	161,036,886	149,273,454

第20期	133,177,029	143,348,079
第21期	177,352,090	126,755,683
第22期(中間期)	98,815,213	54,803,998

(注) 本邦外における設定および解約の実績はありません。

### 3【ファンドの経理状況】

1. 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)ならびに同規則第38条の3、第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。  
なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第22期中間計算期間(2021年 3月 9日から2021年 9月 8日まで)の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により中間監査を受けております。

## 【三井住友・年金プラン30】

## (1)【中間貸借対照表】

(単位:円)

	第21期 (2021年 3月 8日現在)	第22期中間計算期間 (2021年 9月 8日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	17,681,141	18,991,040
親投資信託受益証券	2,204,607,505	2,359,826,682
未収入金	2,330,000	4,770,000
流動資産合計	2,224,618,646	2,383,587,722
資産合計	2,224,618,646	2,383,587,722
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	-	1,000,000
未払解約金	2,326,062	1,119,185
未払受託者報酬	951,859	1,012,138
未払委託者報酬	9,756,449	10,374,353
未払利息	42	47
その他未払費用	146,300	146,596
流動負債合計	13,180,712	13,652,319
負債合計	13,180,712	13,652,319
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	1,440,199,208	1,447,270,509
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金( )	771,238,726	922,664,894
元本等合計	2,211,437,934	2,369,935,403
純資産合計	2,211,437,934	2,369,935,403
負債純資産合計	2,224,618,646	2,383,587,722

## ( 2 ) 【中間損益及び剰余金計算書】

( 単位 : 円 )

	第21期中間計算期間 自 2020年 3月 7日 至 2020年 9月 6日	第22期中間計算期間 自 2021年 3月 9日 至 2021年 9月 8日
営業収益		
有価証券売買等損益	67,702,245	158,449,177
営業収益合計	67,702,245	158,449,177
営業費用		
支払利息	3,183	4,474
受託者報酬	896,289	1,012,138
委託者報酬	9,186,862	10,374,353
その他費用	148,929	147,009
営業費用合計	10,235,263	11,537,974
営業利益又は営業損失( )	57,466,982	146,911,203
経常利益又は経常損失( )	57,466,982	146,911,203
中間純利益又は中間純損失( )	57,466,982	146,911,203
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額( )	1,831,356	2,644,890
期首剰余金又は期首欠損金( )	613,371,097	771,238,726
剰余金増加額又は欠損金減少額	35,844,858	39,002,325
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	35,844,858	39,002,325
剰余金減少額又は欠損金増加額	34,704,199	31,842,470
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	34,704,199	31,842,470
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金( )	673,810,094	922,664,894

## (3)【中間注記表】

## (重要な会計方針の注記)

項 目	第22期中間計算期間 自 2021年 3月 9日 至 2021年 9月 8日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(ただし、売気配相場は使用しない)、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>計算期間の取扱い 当中間計算期間は前期末が休日のため、2021年 3月 9日から2021年 9月 8日までとなっております。</p>

## (中間貸借対照表に関する注記)

項 目	第21期 (2021年 3月 8日現在)	第22期中間計算期間 (2021年 9月 8日現在)
1. 当中間計算期間の末日における受益権の総数	1,440,199,208口	1,447,270,509口
2. 1単位当たり純資産の額	<p>1口当たり純資産額 1.5355円</p> <p>(10,000口当たりの純資産額 15,355円)</p>	<p>1口当たり純資産額 1.6375円</p> <p>(10,000口当たりの純資産額 16,375円)</p>

## (中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

該当事項はありません。

## (金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項 目	第22期中間計算期間 (2021年 9月 8日現在)
1. 中間貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありませぬ。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券(親投資信託受益証券) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

## (デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

## (その他の注記)

項 目	第21期 (2021年 3月 8日現在)	第22期中間計算期間 (2021年 9月 8日現在)
期首元本額	1,425,758,663円	1,440,199,208円
期中追加設定元本額	161,597,974円	66,449,680円
期中一部解約元本額	147,157,429円	59,378,379円

## 【三井住友・年金プラン50】

## (1) 【中間貸借対照表】

(単位:円)

	第21期 (2021年 3月 8日現在)	第22期中間計算期間 (2021年 9月 8日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	31,432,040	31,912,761
親投資信託受益証券	3,108,278,882	3,425,057,459
未収入金	-	7,540,000
流動資産合計	3,139,710,922	3,464,510,220
資産合計	3,139,710,922	3,464,510,220
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	-	5,000,000
未払解約金	440,457	2,531,869
未払受託者報酬	1,315,311	1,442,387
未払委託者報酬	16,770,063	18,390,311
未払利息	75	79
その他未払費用	200,200	200,631
流動負債合計	18,726,106	27,565,277
負債合計	18,726,106	27,565,277
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	1,927,956,673	1,922,702,861
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金( )	1,193,028,143	1,514,242,082
元本等合計	3,120,984,816	3,436,944,943
純資産合計	3,120,984,816	3,436,944,943
負債純資産合計	3,139,710,922	3,464,510,220



## ( 2 ) 【中間損益及び剰余金計算書】

( 単位 : 円 )

	第21期中間計算期間 自 2020年 3月 7日 至 2020年 9月 6日	第22期中間計算期間 自 2021年 3月 9日 至 2021年 9月 8日
営業収益		
有価証券売買等損益	173,390,469	344,098,577
営業収益合計	173,390,469	344,098,577
営業費用		
支払利息	4,588	7,110
受託者報酬	1,193,347	1,442,387
委託者報酬	15,215,143	18,390,311
その他費用	203,721	201,305
営業費用合計	16,616,799	20,041,113
営業利益又は営業損失( )	156,773,670	324,057,464
経常利益又は経常損失( )	156,773,670	324,057,464
中間純利益又は中間純損失( )	156,773,670	324,057,464
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額( )	317,144	6,658,749
期首剰余金又は期首欠損金( )	797,149,471	1,193,028,143
剰余金増加額又は欠損金減少額	44,837,138	60,673,790
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	44,837,138	60,673,790
剰余金減少額又は欠損金増加額	40,691,460	56,858,566
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	40,691,460	56,858,566
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金( )	958,385,963	1,514,242,082

## （ 3 ）【中間注記表】

## （ 重要な会計方針の注記 ）

項 目	第22期中間計算期間 自 2021年 3月 9日 至 2021年 9月 8日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>計算期間の取扱い 当中間計算期間は前期末が休日のため、2021年 3月 9日から2021年 9月 8日までとなっております。</p>

## （ 中間貸借対照表に関する注記 ）

項 目	第21期 (2021年 3月 8日現在)	第22期中間計算期間 (2021年 9月 8日現在)
1. 当中間計算期間の末日における受益権の総数	1,927,956,673口	1,922,702,861口
2. 1単位当たり純資産の額	<p>1口当たり純資産額 1.6188円</p> <p>(10,000口当たりの純資産額 16,188円)</p>	<p>1口当たり純資産額 1.7876円</p> <p>(10,000口当たりの純資産額 17,876円)</p>

## （ 中間損益及び剰余金計算書に関する注記 ）

該当事項はありません。

## （ 金融商品に関する注記 ）

金融商品の時価等に関する事項

項 目	第22期中間計算期間 (2021年 9月 8日現在)
1. 中間貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありませぬ。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券(親投資信託受益証券) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

## (デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

## (その他の注記)

項 目	第21期 (2021年 3月 8日現在)	第22期中間計算期間 (2021年 9月 8日現在)
期首元本額	1,884,941,604円	1,927,956,673円
期中追加設定元本額	190,066,722円	86,459,862円
期中一部解約元本額	147,051,653円	91,713,674円

## 【三井住友・年金プラン70】

## (1) 【中間貸借対照表】

(単位:円)

	第21期 (2021年 3月 8日現在)	第22期中間計算期間 (2021年 9月 8日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	26,768,112	31,986,353
親投資信託受益証券	2,055,439,289	2,434,280,339
未収入金	370,000	9,000,000
流動資産合計	2,082,577,401	2,475,266,692
資産合計	2,082,577,401	2,475,266,692
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	-	16,000,000
未払解約金	653,228	27,604
未払受託者報酬	861,895	990,994
未払委託者報酬	13,143,778	15,112,528
未払利息	64	79
その他未払費用	234,300	234,686
流動負債合計	14,893,265	32,365,891
負債合計	14,893,265	32,365,891
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	1,263,272,134	1,307,283,349
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金( )	804,412,002	1,135,617,452
元本等合計	2,067,684,136	2,442,900,801
純資産合計	2,067,684,136	2,442,900,801
負債純資産合計	2,082,577,401	2,475,266,692

## ( 2 ) 【中間損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第21期中間計算期間 自 2020年 3月 7日 至 2020年 9月 6日	第22期中間計算期間 自 2021年 3月 9日 至 2021年 9月 8日
営業収益		
有価証券売買等損益	159,818,290	314,311,050
営業収益合計	159,818,290	314,311,050
営業費用		
支払利息	3,046	6,008
受託者報酬	748,010	990,994
委託者報酬	11,407,077	15,112,528
その他費用	236,374	235,181
営業費用合計	12,394,507	16,344,711
営業利益又は営業損失( )	147,423,783	297,966,339
経常利益又は経常損失( )	147,423,783	297,966,339
中間純利益又は中間純損失( )	147,423,783	297,966,339
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額( )	1,781,190	5,355,677
期首剰余金又は期首欠損金( )	436,020,904	804,412,002
剰余金増加額又は欠損金減少額	33,252,247	73,646,956
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	33,252,247	73,646,956
剰余金減少額又は欠損金増加額	24,628,603	35,052,168
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	24,628,603	35,052,168
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金( )	590,287,141	1,135,617,452

## ( 3 ) 【中間注記表】

## ( 重要な会計方針の注記 )

項 目	第22期中間計算期間 自 2021年 3月 9日 至 2021年 9月 8日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(ただし、売気配相場は使用しない)、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>計算期間の取扱い 当中間計算期間は前期末が休日のため、2021年 3月 9日から2021年 9月 8日までとなっております。</p>

## ( 中間貸借対照表に関する注記 )

項 目	第21期 ( 2021年 3月 8日現在 )	第22期中間計算期間 ( 2021年 9月 8日現在 )
1. 当中間計算期間の末日における受益権の総数	1,263,272,134口	1,307,283,349口
2. 1単位当たり純資産の額	<p>1口当たり純資産額 1.6368円</p> <p>(10,000口当たりの純資産額 16,368円)</p>	<p>1口当たり純資産額 1.8687円</p> <p>(10,000口当たりの純資産額 18,687円)</p>

## ( 中間損益及び剰余金計算書に関する注記 )

該当事項はありません。

## ( 金融商品に関する注記 )

金融商品の時価等に関する事項

項目	第22期中間計算期間 (2021年 9月 8日現在)
1. 中間貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありませぬ。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券(親投資信託受益証券) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

## (デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

## (その他の注記)

項目	第21期 (2021年 3月 8日現在)	第22期中間計算期間 (2021年 9月 8日現在)
期首元本額	1,212,675,727円	1,263,272,134円
期中追加設定元本額	177,352,090円	98,815,213円
期中一部解約元本額	126,755,683円	54,803,998円

## (参考)

「三井住友・年金プラン30」「三井住友・年金プラン50」および「三井住友・年金プラン70」は、「国内株式マザーファンド(B号)」、「国内債券マザーファンド(B号)」、「外国株式マザーファンド(B号)」および「外国債券マザーファンド(B号)」受益証券を主要投資対象としており、中間貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券です。

なお、以下に記載した状況は、監査の対象外です。

## 国内株式マザーファンド(B号)

## 貸借対照表

(単位:円)

	(2021年 3月 8日現在)	(2021年 9月 8日現在)
資産の部		
流動資産		

コール・ローン	58,302,518	24,547,538
株式	2,500,840,260	2,841,122,790
未収入金	93,958,818	1,000,000
未収配当金	2,949,700	1,724,800
流動資産合計	2,656,051,296	2,868,395,128
資産合計	2,656,051,296	2,868,395,128
負債の部		
流動負債		
未払金	94,066,986	-
未払解約金	-	3,080,000
未払利息	140	60
その他未払費用	-	952
流動負債合計	94,067,126	3,081,012
負債合計	94,067,126	3,081,012
純資産の部		
元本等		
元本	1,471,870,163	1,411,767,138
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	1,090,114,007	1,453,546,978
元本等合計	2,561,984,170	2,865,314,116
純資産合計	2,561,984,170	2,865,314,116
負債純資産合計	2,656,051,296	2,868,395,128

## 注記表

## （重要な会計方針の注記）

項目	自 2021年 3月 9日 至 2021年 9月 8日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金の計上基準</p> <p>受取配当金は原則として、配当落ち日において、確定配当金額または予想配当金額を計上しております。なお、配当金額が未確定の場合は、入金日基準で計上しております。</p>

## （貸借対照表に関する注記）



項目	(2021年 3月 8日現在)	(2021年 9月 8日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	1,471,870,163口	1,411,767,138口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.7406円 (10,000口当たりの純資産額 17,406円)	1口当たり純資産額 2.0296円 (10,000口当たりの純資産額 20,296円)

## (金融商品に関する注記)

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	(2021年 9月 8日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券(株式) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

## (デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

## (その他の注記)

(2021年 3月 8日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	1,539,151,303円
同期中における追加設定元本額	465,280,158円
同期中における一部解約元本額	532,561,298円
2021年 3月 8日現在における元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	276,322,734円
三井住友・年金プラン50	618,406,502円
三井住友・年金プラン70	577,140,927円
合計	1,471,870,163円

(2021年 9月 8日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	1,471,870,163円
同期中における追加設定元本額	103,315,053円
同期中における一部解約元本額	163,418,078円
2021年 9月 8日現在における元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	246,790,219円
三井住友・年金プラン50	581,408,190円
三井住友・年金プラン70	583,568,729円
合計	1,411,767,138円

## 国内債券マザーファンド（B号）

## 貸借対照表

	(単位：円)	
	(2021年 3月 8日現在)	(2021年 9月 8日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	368,119,587	1,300,700,737
国債証券	122,075,102,090	140,416,307,641
地方債証券	9,671,426,000	7,163,813,000
特殊債券	16,094,390,952	15,998,266,298
社債券	32,476,443,000	40,768,773,000
未収入金	1,758,555,600	3,366,405,000
未収利息	265,208,254	286,986,888
前払費用	43,752,986	24,001,249
流動資産合計	182,752,998,469	209,325,253,813
資産合計	182,752,998,469	209,325,253,813
負債の部		
流動負債		
未払金	1,300,000,000	3,404,644,000
未払解約金	248,627,702	61,810,336
未払利息	885	3,226
その他未払費用	-	35,010
流動負債合計	1,548,628,587	3,466,492,572
負債合計	1,548,628,587	3,466,492,572
純資産の部		
元本等		
元本	128,232,774,710	144,281,119,630
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	52,971,595,172	61,577,641,611
元本等合計	181,204,369,882	205,858,761,241
純資産合計	181,204,369,882	205,858,761,241
負債純資産合計	182,752,998,469	209,325,253,813

## 注記表

（重要な会計方針の注記）

項 目	自 2021年 3月 9日 至 2021年 9月 8日
有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券は個別法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(ただし、売気配相場は使用しない)、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>

## (貸借対照表に関する注記)

項 目	(2021年 3月 8日現在)	(2021年 9月 8日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	128,232,774,710口	144,281,119,630口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.4131円 (10,000口当たりの純資産額 14,131円)	1口当たり純資産額 1.4268円 (10,000口当たりの純資産額 14,268円)

## (金融商品に関する注記)

## 金融商品の時価等に関する事項

項 目	(2021年 9月 8日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券(国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

## (デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

(2021年 3月 8日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	149,614,489,690円
同期中における追加設定元本額	18,568,804,996円
同期中における一部解約元本額	39,950,519,976円
2021年 3月 8日現在における元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	891,014,096円
三井住友・年金プラン50	822,168,884円
三井住友・年金プラン70	250,153,238円
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	96,467,588円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	165,520,924円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	51,945,681円
三井住友・DC国内債券アクティブ	314,303,673円
三井住友・日本債券年金ファンド	4,545,063,340円
S M A M・年金国内債券アクティブファンド(適格機関投資家専用)	3,022,344,533円
S M A M・バランスファンドVA安定型(適格機関投資家専用)	153,992,661円
S M A M・バランスファンドVA株40型(適格機関投資家専用)	1,384,810円
S M A M・バランスファンドVA株60型(適格機関投資家専用)	289,029円
S M A M・バランスファンドVA株80型(適格機関投資家専用)	150,882円
バランスファンドVA(安定運用型) < 適格機関投資家限定 >	108,011,419円
三井住友 / F O F s 用日本債F(適格機関投資家限定)	117,809,963,952円
合計	128,232,774,710円

(2021年 9月 8日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	128,232,774,710円
同期中における追加設定元本額	19,109,120,863円
同期中における一部解約元本額	3,060,775,943円
2021年 9月 8日現在における元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	959,338,454円
三井住友・年金プラン50	909,965,294円
三井住友・年金プラン70	305,203,965円
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	107,666,140円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	196,959,409円

三井住友・DCバランスファンド(成長型)	66,026,367円
三井住友・DC国内債券アクティブ	316,485,227円
三井住友・日本債券年金ファンド	4,518,124,059円
S M A M・年金国内債券アクティブファンド(適格機関投資家専用)	2,960,277,549円
S M A M・バランスファンドVA安定型(適格機関投資家専用)	136,291,638円
S M A M・バランスファンドVA株40型(適格機関投資家専用)	1,285,711円
S M A M・バランスファンドVA株60型(適格機関投資家専用)	379,613円
S M A M・バランスファンドVA株80型(適格機関投資家専用)	164,224円
バランスファンドVA(安定運用型) <適格機関投資家限定>	110,905,993円
三井住友 / F O F s 用日本債F(適格機関投資家限定)	133,692,045,987円
合計	144,281,119,630円

## 外国株式マザーファンド(B号)

## 貸借対照表

(単位:円)

	(2021年 3月 8日現在)	(2021年 9月 8日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
預金	2,762,953	4,113,237
コール・ローン	17,420,074	8,388,487
株式	1,266,842,116	1,503,561,376
未収入金	-	7,000,000
未収配当金	1,509,563	1,378,542
流動資産合計	1,288,534,706	1,524,441,642
資産合計	1,288,534,706	1,524,441,642
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払解約金	-	230,000
未払利息	41	20
その他未払費用	-	272
流動負債合計	41	230,292
負債合計	41	230,292
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	452,002,050	415,730,658
剰余金		
剰余金又は欠損金( )	836,532,615	1,108,480,692
元本等合計	1,288,534,665	1,524,211,350
純資産合計	1,288,534,665	1,524,211,350
負債純資産合計	1,288,534,706	1,524,441,642

## 注記表

(重要な会計方針の注記)

項目	自 2021年 3月 9日 至 2021年 9月 8日
----	--------------------------------

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(ただし、売気配相場は使用しない)、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。</p>
3. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金の計上基準</p> <p>受取配当金は原則として、配当落ち日において、確定配当金額または予想配当金額を計上しております。なお、配当金額が未確定の場合は、入金日基準で計上しております。</p>
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建資産等の会計処理</p> <p>「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条に基づいて処理しております。</p>

## (貸借対照表に関する注記)

項目	(2021年 3月 8日現在)	(2021年 9月 8日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	452,002,050口	415,730,658口
2. 1単位当たり純資産の額	<p>1口当たり純資産額 2.8507円</p> <p>(10,000口当たりの純資産額 28,507円)</p>	<p>1口当たり純資産額 3.6663円</p> <p>(10,000口当たりの純資産額 36,663円)</p>

## (金融商品に関する注記)

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	(2021年 9月 8日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありませぬ。

2.時価の算定方法	<p>(1) 有価証券(株式) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>
-----------	---

## (デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

## (その他の注記)

(2021年 3月 8日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	486,602,934円
同期中における追加設定元本額	258,809,811円
同期中における一部解約元本額	293,410,695円
2021年 3月 8日現在における元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	85,147,801円
三井住友・年金プラン50	195,340,116円
三井住友・年金プラン70	171,514,133円
合計	452,002,050円

(2021年 9月 8日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	452,002,050円
同期中における追加設定元本額	75,029,060円
同期中における一部解約元本額	111,300,452円
2021年 9月 8日現在における元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	76,960,687円
三井住友・年金プラン50	175,791,736円
三井住友・年金プラン70	162,978,235円
合計	415,730,658円

## 外国債券マザーファンド(B号)

## 貸借対照表

(単位:円)

	(2021年 3月 8日現在)	(2021年 9月 8日現在)
資産の部		
流動資産		
預金	-	8,218,699
コール・ローン	7,378,292	6,239,935
国債証券	782,438,032	761,434,280
地方債証券	6,867,179	7,145,898
派生商品評価勘定	632,433	21,715
未収入金	4,952,445	34,529,924
未収利息	4,371,727	3,033,229
前払費用	483,271	740,875
流動資産合計	807,123,379	821,364,555
資産合計	807,123,379	821,364,555
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	453,902	22,373
未払金	2,269,129	22,268,331
未払解約金	-	6,914,000
未払利息	17	15
その他未払費用	-	332
流動負債合計	2,723,048	29,205,051
負債合計	2,723,048	29,205,051
純資産の部		
元本等		
元本	280,289,940	269,137,198
剰余金		
剰余金又は欠損金( )	524,110,391	523,022,306
元本等合計	804,400,331	792,159,504
純資産合計	804,400,331	792,159,504
負債純資産合計	807,123,379	821,364,555

## 注記表

(重要な会計方針の注記)

項目	自 2021年 3月 9日 至 2021年 9月 8日
----	--------------------------------



1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券、地方債証券は個別法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(ただし、売気配相場は使用しない)、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。</p>
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建資産等の会計処理</p> <p>「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条に基づいて処理しております。</p>

## (貸借対照表に関する注記)

項目	(2021年 3月 8日現在)	(2021年 9月 8日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	280,289,940口	269,137,198口
2. 1単位当たり純資産の額	<p>1口当たり純資産額 2.8699円</p> <p>(10,000口当たりの純資産額 28,699円)</p>	<p>1口当たり純資産額 2.9433円</p> <p>(10,000口当たりの純資産額 29,433円)</p>

## (金融商品に関する注記)

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	(2021年 9月 8日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	<p>金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p>
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券(国債証券、地方債証券) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

(デリバティブ取引に関する注記)

(2021年 3月 8日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位:円)

区 分	種 類	契 約 額 等	うち1年超	時 価	評 価 損 益
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建	19,619,767	-	20,252,200	632,433
	米ドル	15,713,263	-	16,252,500	539,237
	デンマーククローネ	3,906,504	-	3,999,700	93,196
	売建	20,687,798	-	21,141,700	453,902
	米ドル	4,158,748	-	4,334,000	175,252
	ユーロ	16,529,050	-	16,807,700	278,650
	合計	40,307,565	-	41,393,900	178,531

(2021年 9月 8日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位:円)

区 分	種 類	契 約 額 等	うち1年超	時 価	評 価 損 益
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建	15,835,438	-	15,856,108	20,670
	米ドル	9,140,201	-	9,153,622	13,421
	ユーロ	2,658,156	-	2,658,718	562
	デンマーククローネ	4,037,081	-	4,043,768	6,687
	売建	8,927,470	-	8,948,798	21,328
	米ドル	1,093,579	-	1,102,640	9,061
ユーロ	7,833,891	-	7,846,158	12,267	
	合計	24,762,908	-	24,804,906	658

(注) 1. 時価の算定方法

(1) 為替予約取引の時価の算定方法について

1) 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しています。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しています。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっています。

- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いています。
- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い受渡日として、発表されている対顧客先物相場の仲値を用いています。

2) 計算期間末日において対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

(その他の注記)

(2021年 3月 8日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	237,421,750円
同期中における追加設定元本額	148,919,370円
同期中における一部解約元本額	106,051,180円
2021年 3月 8日現在における元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	77,290,951円
三井住友・年金プラン50	109,138,858円
三井住友・年金プラン70	72,630,027円
バランスファンドVA(安定運用型) <適格機関投資家限定>	21,230,104円
合計	280,289,940円

(2021年 9月 8日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	280,289,940円
同期中における追加設定元本額	125,464,212円
同期中における一部解約元本額	136,616,954円
2021年 9月 8日現在における元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	70,667,680円
三井住友・年金プラン50	102,669,682円
三井住友・年金プラン70	73,685,023円
バランスファンドVA(安定運用型) <適格機関投資家限定>	22,114,813円
合計	269,137,198円

## 4【委託会社等の概況】

## (1)【資本金の額】

資本金の額および株式数

	2021年9月30日現在
資本金の額	20億円
会社が発行する株式の総数	60,000,000株
発行済株式総数	33,870,060株

最近5年間における資本金の額の増減  
該当ありません。

## (2)【事業の内容及び営業の状況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として投資運用業および投資助言業務を行っています。また、「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業にかかる業務を行っています。

2021年9月30日現在、委託会社が運用を行っている投資信託(親投資信託は除きます)は、以下の通りです。

	本数(本)	純資産総額(百万円)
追加型株式投資信託	747	9,430,017
単位型株式投資信託	104	569,236
追加型公社債投資信託	1	28,911
単位型公社債投資信託	189	433,339
合計	1,041	10,461,505

## (3)【その他】

イ 定款の変更、その他の重要事項

(イ) 定款の変更

該当ありません。

(ロ) その他の重要事項

当社を存続会社とし、大和住銀投信投資顧問株式会社を消滅会社とする吸収合併(2019年4月1日付)に伴って発生したのれんについて、2021年3月期決算において28,097,346千円の減損損失を計上しました。

ロ 訴訟事件その他会社に重要な影響を与えることが予想される事実

該当ありません。

## 5【委託会社等の経理状況】

- 1 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。
- 2 当社は、当事業年度(2020年4月1日から2021年3月31日まで)の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任 あずさ監査法人の監査を受けております。

## (1)【貸借対照表】

	(単位：千円)	
	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	33,264,545	33,048,142
顧客分別金信託	300,021	300,036
前払費用	515,226	449,748
未収入金	602,605	132,419
未収委託者報酬	8,404,880	9,936,096
未収運用受託報酬	2,199,785	2,247,156
未収投資助言報酬	299,826	398,108
未収収益	37,702	39,975
その他の流動資産	40,119	6,981
流動資産合計	45,664,712	46,558,665
固定資産		
有形固定資産	1	
建物	101,609	1,509,450
器具備品	783,224	870,855
土地	710	710
リース資産	968	13,483
建設仮勘定	66,498	-
有形固定資産合計	953,010	2,394,500
無形固定資産		
ソフトウェア	909,133	1,347,889
ソフトウェア仮勘定	508,733	1,029,033
のれん	34,397,824	3,654,491
顧客関連資産	17,785,166	15,671,890
電話加入権	12,739	12,727
商標権	54	48
無形固定資産合計	53,613,651	21,716,080
投資その他の資産		
投資有価証券	19,436,480	22,866,282
関係会社株式	11,246,398	11,246,398
長期差入保証金	2,523,637	1,409,091
長期前払費用	113,852	116,117
会員権	90,479	90,479
貸倒引当金	20,750	20,750
投資その他の資産合計	33,390,098	35,707,619
固定資産合計	87,956,760	59,818,200
資産合計	133,621,473	106,376,866

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
リース債務	1,064	5,153
顧客からの預り金	14,285	20,077
その他の預り金	146,200	169,380
未払金		
未払収益分配金	1,629	1,646
未払償還金	131,338	43,523
未払手数料	3,776,873	4,480,697
その他未払金	502,211	270,290
未払費用	3,935,582	5,940,121
未払消費税等	305,513	235,647
未払法人税等	489,151	762,648
賞与引当金	1,716,321	1,516,622
その他の流動負債	30,951	9,710
流動負債合計	11,051,125	13,455,519
固定負債		
リース債務	-	9,678
繰延税金負債	2,963,538	2,566,958
退職給付引当金	5,299,814	5,258,448
賞与引当金	14,767	-
その他の固定負債	172,918	40,950
固定負債合計	8,451,038	7,876,035
負債合計	19,502,164	21,331,554
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金	8,628,984	8,628,984
その他資本剰余金	81,927,000	81,927,000
資本剰余金合計	90,555,984	90,555,984
利益剰余金		
利益準備金	284,245	284,245
その他利益剰余金		
配当準備積立金	60,000	60,000
別途積立金	1,476,959	1,476,959
繰越利益剰余金	19,364,265	10,281,242
利益剰余金合計	21,185,470	8,460,037
株主資本計	113,741,454	84,095,946
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	377,855	949,365
評価・換算差額等合計	377,855	949,365
純資産合計	114,119,309	85,045,311
負債・純資産合計	133,621,473	106,376,866

## (2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度		当事業年度	
	(自	2019年4月1日	(自	2020年4月1日
	至	2020年3月31日)	至	2021年3月31日)
営業収益				
委託者報酬		54,615,133		50,610,457
運用受託報酬		9,389,058		9,450,169
投資助言報酬		1,303,595		1,270,584
その他営業収益				
サービス支援手数料		181,061		200,807
その他		32,421		32,820
営業収益計		65,521,269		61,564,839
営業費用				
支払手数料		24,888,040		22,784,919
広告宣伝費		447,024		365,317
調査費				
調査費		3,214,679		3,061,987
委託調査費		7,702,309		7,810,157
営業雑経費				
通信費		70,007		95,163
印刷費		612,249		554,920
協会費		45,117		40,044
諸会費		32,199		29,473
情報機器関連費		4,349,174		4,562,612
販売促進費		68,688		23,614
その他		154,201		163,332
営業費用合計		41,583,691		39,491,542
一般管理費				
給料				
役員報酬		264,325		277,027
給料・手当		9,789,691		9,280,730
賞与		914,702		950,630
賞与引当金繰入額		1,726,013		1,501,855
交際費		30,898		11,815
寄付金		2,022		949
事務委託費		956,931		844,255
旅費交通費		249,359		21,023
租税公課		389,032		389,819
不動産賃借料		1,121,553		1,639,529
退職給付費用		797,158		790,144
固定資産減価償却費		3,044,658		3,040,894
のれん償却費		2,645,986		2,645,986
諸経費		482,324		608,206
一般管理費合計		22,414,658		22,002,869
営業利益		1,522,919		70,426

(単位：千円)

	前事業年度		当事業年度	
	(自	2019年4月1日	(自	2020年4月1日
	至	2020年3月31日)	至	2021年3月31日)
営業外収益				
受取配当金		778,113		13,164
受取利息		947		2,736
時効成立分配金・償還金		1,041		88,335
原稿・講演料		2,061		2,603

投資有価証券償還益		6,398	57,388
投資有価証券売却益		24,206	162,941
雑収入		53,484	72,933
営業外収益合計		866,254	400,104
営業外費用			
為替差損		72,457	766
投資有価証券償還損		129,006	11,762
投資有価証券売却損		12,906	34,473
雑損失		8,334	1,240
営業外費用合計		222,704	48,243
経常利益		2,166,469	422,288
特別損失			
固定資産除却損	1	110,668	54,493
減損損失	2	46,417	28,097,346
合併関連費用		42,800	-
早期退職費用	3	-	216,200
本社移転費用	4	133,168	127,044
その他特別損失		-	5,460
特別損失合計		333,054	28,500,544
税引前当期純利益又は 税引前当期純損失（ ）		1,833,414	28,078,256
法人税、住民税及び事業税		1,874,278	1,549,173
法人税等調整額		619,676	693,192
法人税等合計		1,254,602	855,980
当期純利益又は 当期純損失（ ）		578,811	28,934,237

### （ 3 ）【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金		
					配当準備 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	2,000,000	8,628,984	-	8,628,984	284,245	60,000	1,476,959	21,255,054
当期変動額								
剰余金の配当								2,469,600
当期純利益								578,811
合併による増加			81,927,000	81,927,000				
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）								
当期変動額合計	-	-	81,927,000	81,927,000	-	-	-	1,890,788
当期末残高	2,000,000	8,628,984	81,927,000	90,555,984	284,245	60,000	1,476,959	19,364,265

	株主資本		評価・換算差額等	
	利益剰余金			



	利益剰余金 合計	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	純資産合計
当期首残高	23,076,258	33,705,242	594,061	594,061	34,299,304
当期変動額					
剰余金の配当	2,469,600	2,469,600			2,469,600
当期純利益	578,811	578,811			578,811
合併による増加		81,927,000			81,927,000
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)			216,206	216,206	216,206
当期変動額合計	1,890,788	80,036,211	216,206	216,206	79,820,005
当期末残高	21,185,470	113,741,454	377,855	377,855	114,119,309

当事業年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金		
					配当準備 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	2,000,000	8,628,984	81,927,000	90,555,984	284,245	60,000	1,476,959	19,364,265
当期変動額								
剰余金の配当				-				711,271
当期純損失( )				-				28,934,237
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)				-				
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	-	29,645,508
当期末残高	2,000,000	8,628,984	81,927,000	90,555,984	284,245	60,000	1,476,959	10,281,242

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	21,185,470	113,741,454	377,855	377,855	114,119,309
当期変動額					
剰余金の配当	711,271	711,271		-	711,271
当期純損失( )	28,934,237	28,934,237		-	28,934,237
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)	-	-	571,510	571,510	571,510
当期変動額合計	29,645,508	29,645,508	571,510	571,510	29,073,997
当期末残高	8,460,037	84,095,946	949,365	949,365	85,045,311

[注記事項]

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
  - (1) 子会社株式

## 移動平均法による原価法

## (2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外

決算日の市場価格等に基づく時価法

（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

## 2. 固定資産の減価償却の方法

## (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。但し、建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	3～50年
器具備品	4～15年

## (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、主な償却年数は次のとおりであります。

のれん	14年
顧客関連資産	6～19年
ソフトウェア（自社利用分）	5年（社内における利用可能期間）

## (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

## 3. 引当金の計上基準

## (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

## (2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち、当事業年度の負担額を計上しております。

## (3) 退職給付引当金

従業員の退職金支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時において一時に費用処理しております。

数理計算上の差異については、その発生時において一時に費用処理しております。

## 4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

## (会計方針の変更)

当社は「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）及び「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準第31号 2019年7月4日）を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしました。

## (貸借対照表関係)

## 1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)

建物	466,875千円	102,329千円
器具備品	1,225,261千円	1,153,649千円
リース資産	1,452千円	2,830千円

## 2 当座借越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行と当座借越契約を締結しております。当座借越契約に係る借入金未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
当座借越極度額の総額	10,000,000千円	10,000,000千円
借入実行残高	-千円	-千円
差引額	10,000,000千円	10,000,000千円

## 3 保証債務

当社は、子会社であるSumitomo Mitsui DS Asset Management (USA) Inc.における賃貸借契約に係る賃借料に対し、2023年6月までの賃借料総額の支払保証を行っております。

	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
Sumitomo Mitsui DS Asset Management (USA) Inc.	132,559千円	93,374千円

## (損益計算書関係)

## 1 固定資産除却損

	前事業年度 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)	当事業年度 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)
建物	879千円	18,278千円
器具備品	119千円	28,604千円
リース資産	5,377千円	-千円
ソフトウェア	1,596千円	7,610千円
ソフトウェア仮勘定	102,695千円	-千円

## 2 減損損失

前事業年度において、次のとおり減損損失を計上しております。

(単位：千円)

場所	用途	種類	減損損失
千代田区	事業用資産	建物	46,417

当社は、資産と対応して継続的に収支の把握ができる単位が全社のみであることから全社資産の単一グループとしております。

上記事業用資産については、霞ヶ関オフィスの移転に係る意思決定をしたことに伴い将来の使用が見込めなくなった資産につき、回収可能額を零と見積もり、当該減少額を減損損失に計上しております。その内訳は、建物に計上した資産除去債務に対応する原状回復費用相当額であります。

当事業年度において、次のとおり減損損失を計上しております。

(単位：千円)

場所	用途	種類	減損損失
-	その他	のれん	28,097,346

当社は、資産と対応して継続的に収支の把握ができる単位が全社のみであることから全社資産の単一グループとしております。

当社は、当社を存続会社とし、大和住銀投信投資顧問株式会社を消滅会社とする吸収合併に伴って発生したのれんを計上しております。当該のれんについて下期以降の業績は上向いているものの、通期では業績計画を下回る結果となったことを踏まえて将来キャッシュ・フローを見直した結果、のれんの帳簿価額の回収が見込まれなくなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減損し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、回収可能価額は使用価値としており、将来キャッシュ・フローを9.2%で割り引いて算出しております。

## 3 早期退職費用

早期希望退職の募集等の実施に関連して発生する費用であります。

## 4 本社移転費用

前事業年度の本社移転費用は、本社事務所移転に伴い解約日までに賃貸期間の残存分(2020年7月13日から2020年9月30日まで)の賃料及び共益費相当額として133,168千円支払うものであります。

当事業年度の本社移転費用は、本社移転に伴うものであり、主に設備撤去費用、引越費用などであります。

## (株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

## 1. 発行済株式数に関する事項

合併に伴う普通株式の発行により16,230,060株増加しております。

	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	17,640,000株	16,230,060株	-	33,870,060株

## 2. 剰余金の配当に関する事項

## (1) 配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月24日 臨時株主総会	普通株式	2,469,600	140.00	2019年 3月28日	2019年 6月25日

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度になるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	711,271	21.00	2020年 3月31日	2020年 6月30日

当事業年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

## 1. 発行済株式数に関する事項

	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	33,870,060株	-	-	33,870,060株

## 2. 剰余金の配当に関する事項

## 配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年6月29日 定時株主総会	普通株式	711,271	21.00	2020年 3月31日	2020年 6月30日

## (リース取引関係)

オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
1年以内	1,618,641	1,194,699
1年超	5,844,934	3,497,258
合計	7,463,576	4,691,958

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融サービス事業を行っています。そのため、資金運用については、短期的で安全性の高い金融資産に限定し、財務体質の健全性、安全性、流動性の確保を第一とし、顧客利益に反しない運用を行っています。また、資金調達及びデリバティブ取引は行っていません。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収運用受託報酬及び未収投資助言報酬は、顧客の信用リスクに晒されています。未収委託者報酬は、信託財産中から支弁されるものであり、信託財産については受託者である信託銀行において分別管理されているため、リスクは僅少となっています。

投資有価証券については、主に事業推進目的のために保有する当社が設定する投資信託等であり、市場価格の変動

リスク及び発行体の信用リスクに晒されています。関係会社株式については、主に全額出資の子会社の株式であり、発行体の信用リスクに晒されています。また、長期差入保証金は、建物等の賃借契約に関連する敷金等であり、差入先の信用リスクに晒されています。

営業債務である未払手数料は、すべて1年以内の支払期日であります。

### (3)金融商品に係るリスク管理体制

#### 信用リスクの管理

当社は、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、営業債権について、取引先毎の期日管理及び残高管理を行うとともに、その状況について取締役会に報告しています。

投資有価証券、子会社株式は発行体の信用リスクについて、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、定期的に管理を行い、その状況について取締役会に報告しています。

長期差入保証金についても、差入先の信用リスクについて、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、定期的に管理を行い、その状況について取締役会に報告しています。

#### 市場リスクの管理

投資有価証券については、自己勘定資産の運用・管理に関する規程に従い、各所管部においては所管する有価証券について管理を、経営企画部においては総合的なリスク管理を行い、定期的に時価を把握しています。また、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、その状況について取締役会に報告しています。

なお、事業推進目的のために保有する当社が設定する投資信託等については、純資産額に対する保有制限を設けており、また、自社設定投信等の取得・処分に関する規則に従い、定期的に取締役会において報告し、投資家の資金性格、金額、および投資家数等の状況から検討した結果、目的が達成されたと判断した場合には速やかに処分することとしています。

## 2.金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のないものは、次表には含まれていません(注2)参照)。

前事業年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	33,264,545	33,264,545	-
(2)顧客分別金信託	300,021	300,021	-
(3)未収委託者報酬	8,404,880	8,404,880	-
(4)未収運用受託報酬	2,199,785	2,199,785	-
(5)未収投資助言報酬	299,826	299,826	-
(6)投資有価証券			
その他有価証券	19,391,111	19,391,111	-
(7)長期差入保証金	2,523,637	2,523,637	-
資産計	66,383,807	66,383,807	-
(1)顧客からの預り金	14,285	14,285	-
(2)未払手数料	3,776,873	3,776,873	-
負債計	3,791,158	3,791,158	-

当事業年度(2021年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	33,048,142	33,048,142	-
(2)顧客分別金信託	300,036	300,036	-
(3)未収委託者報酬	9,936,096	9,936,096	-
(4)未収運用受託報酬	2,247,156	2,247,156	-
(5)未収投資助言報酬	398,108	398,108	-
(6)投資有価証券			
その他有価証券	22,826,472	22,826,472	-
(7)長期差入保証金	1,409,091	1,409,091	-
資産計	70,165,105	70,165,105	-
(1)顧客からの預り金	20,077	20,077	-
(2)未払手数料	4,480,697	4,480,697	-
負債計	4,500,774	4,500,774	-

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

#### 資産

(1)現金及び預金、(2)顧客分別金信託、(3)未収委託者報酬、(4)未収運用受託報酬及び(5)未収投資助言報酬  
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

#### (6)投資有価証券

これらの時価について、投資信託等については取引所の価格、取引金融機関から提示された価格及び公表されている基準価格によっております。

## (7)長期差入保証金

これらの時価については、敷金の性質及び賃貸借契約の期間から帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

負債

## (1)顧客からの預り金及び(2)未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

## (注2)市場価格のない金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
其他有価証券 非上場株式	45,369	39,809
合計	45,369	39,809
子会社株式 非上場株式	11,246,398	11,246,398
合計	11,246,398	11,246,398

其他有価証券については、市場価格がないため、「(6) 其他有価証券」には含めておりません。  
子会社株式については、市場価格がないため、時価開示の対象とはしておりません。

また時価をもって貸借対照表計上額としている「(6) 其他有価証券」は、全て投資信託で構成されております。そのため、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」第26項の経過措置を適用し、金融商品の時価等及び時価のレベルごとの内訳等に関する事項は記載しておりません。

## (注3)金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度(2020年3月31日)

(単位：千円)

区分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	33,264,545	-	-	-
顧客分別金信託	300,021	-	-	-
未収委託者報酬	8,404,880	-	-	-
未収運用受託報酬	2,199,785	-	-	-
未収投資助言報酬	299,826	-	-	-
長期差入保証金	1,125,292	1,398,345	-	-
合計	45,594,350	1,398,345	-	-

当事業年度(2021年3月31日)

(単位：千円)

区分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	33,048,142	-	-	-
顧客分別金信託	300,036	-	-	-
未収委託者報酬	9,936,096	-	-	-
未収運用受託報酬	2,247,156	-	-	-
未収投資助言報酬	398,108	-	-	-
長期差入保証金	42,007	1,367,084	-	-
合計	45,971,548	1,367,084	-	-

## (有価証券関係)

## 1.子会社株式

前事業年度(2020年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額 関係会社株式11,246,398千円)は、市場価格がないことから、記載しておりません。

当事業年度(2021年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額 関係会社株式11,246,398千円)は、市場価格がないことから、記載しておりません。

## 2.其他有価証券

前事業年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
(1)貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 投資信託等	12,411,812	13,327,652	915,839
小計	12,411,812	13,327,652	915,839
(2)貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 投資信託等	6,413,317	6,063,458	349,858
小計	6,413,317	6,063,458	349,858
合計	18,825,130	19,391,111	565,980

(注)非上場株式等(貸借対照表計上額 45,369千円)については、市場価格がないことから、記載しておりません。

当事業年度(2021年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
(1)貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 投資信託等	14,397,606	16,097,433	1,699,827
小計	14,397,606	16,097,433	1,699,827
(2)貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 投資信託等	6,994,762	6,729,039	265,723
小計	6,994,762	6,729,039	265,723
合計	21,392,369	22,826,472	1,434,103

(注)非上場株式等(貸借対照表計上額 39,809千円)については、市場価格がないことから、記載しておりません。

## 3. 事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:千円)

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
1,814,360	24,206	12,906

(単位:千円)

償還額	償還益の合計額	償還損の合計額
3,631,425	6,398	129,006

当事業年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位:千円)

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
1,978,622	162,941	34,473

(単位:千円)

償還額	償還益の合計額	償還損の合計額
1,630,219	57,388	11,762

## 4. 減損処理を行った有価証券

前事業年度において、減損処理を行った有価証券はありません。

当事業年度において、投資有価証券について1,560千円(その他有価証券1,560千円)減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合、及び30%以上50%未満下落し、回復可能性等の合理的反証がない場合に行っております。

(退職給付関係)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

## 2. 確定給付制度

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位:千円)

	前事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
退職給付債務の期首残高	3,418,601	5,299,814
勤務費用	523,396	476,308
利息費用	-	-
数理計算上の差異の発生額	195	67,476
退職給付の支払額	349,050	585,151

過去勤務費用の発生額	-	-
合併による発生額	1,707,062	-
退職給付債務の期末残高	5,299,814	5,258,448

## (2)退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	5,299,814	5,258,448
未認識数理計算上の差異	-	-
未認識過去勤務費用	-	-
退職給付引当金	5,299,814	5,258,448

## (3)退職給付費用及びその内訳項目の金額

(単位：千円)

	前事業年度 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)	当事業年度 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)
勤務費用	492,511	476,308
利息費用	-	-
数理計算上の差異の費用処理額	195	67,476
その他	304,842	246,359
確定給付制度に係る退職給付費用	797,158	790,144

(注)その他は、その他の関係会社等からの出向者の年金掛金負担分及び退職給付引当額相当額負担分、退職定年制度適用による割増退職金並びに確定拠出年金への拠出額であります。

## (4)数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表わしております。)

	前事業年度 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)	当事業年度 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)
割引率	0.000%	0.020%

## 3.確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度248,932千円、当事業年度239,162千円であります。

## (税効果会計関係)

## 1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	1,622,803	1,610,136
賞与引当金	530,059	464,389
調査費	178,573	247,208
未払金	162,557	206,090
未払事業税	46,423	66,891
ソフトウェア償却	91,937	90,431
子会社株式評価損	114,876	114,876
その他有価証券評価差額金	150,771	131,391
その他	88,250	35,930
繰延税金資産小計	2,986,254	2,967,346
評価性引当額(注)	193,485	218,966
繰延税金資産合計	2,792,768	2,748,380
繰延税金負債		
無形固定資産	5,445,817	4,798,732
その他有価証券評価差額金	310,488	516,605



繰延税金負債合計	5,756,306	5,315,338
繰延税金資産(負債)の純額	2,963,538	2,566,958

(注) 評価性引当額が25,480千円増加しております。この増加の内容は、主としてその他有価証券評価差額金に係る評価性引当額を追加的に認識したことに伴うものであります。

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
法定実効税率	30.6%	税引前当期純損失のため記載を省略しております。
(調整)		
評価性引当額の増減	3.5	
受取配当等永久に益金に算入されない項目	13.9	
交際費等永久に損金に算入されない項目	7.3	
住民税均等割等	0.5	
所得税額控除による税額控除	0.5	
のれん償却費	44.1	
その他	3.3	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	68.4	

### (セグメント情報等)

前事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

#### 1. セグメント情報

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融商品取引業を中心とする営業活動を展開しております。これらの営業活動は、金融その他の役務提供を伴っており、この役務提供と一体となった営業活動を基に収益を得ております。

従って、当社の事業区分は、「投資・金融サービス業」という単一の事業セグメントに属しており、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

#### 2. 関連情報

##### (1) 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	委託者報酬	運用受託報酬	投資助言報酬	その他	合計
外部顧客への営業収益	54,615,133	9,389,058	1,303,595	213,482	65,521,269

##### (2) 地域ごとの情報

###### 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

###### 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

##### (3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

#### 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

当社は、投資・金融サービス業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

#### 4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

当社は、投資・金融サービス業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

#### 5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

当事業年度(自 2020年4月1日 至2021年3月31日)

#### 1. セグメント情報

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融商品取引業を中心とする営業活動を展開しております。これらの営業

活動は、金融その他の役務提供を伴っており、この役務提供と一体となった営業活動を基に収益を得ております。

従って、当社の事業区分は、「投資・金融サービス業」という単一の事業セグメントに属しており、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

## 2. 関連情報

### (1) 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	委託者報酬	運用受託報酬	投資助言報酬	その他	合計
外部顧客への営業収益	50,610,457	9,450,169	1,270,584	233,628	61,564,839

### (2) 地域ごとの情報

#### 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

#### 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

### (3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

当社は、投資・金融サービス業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

## 4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

当社は、投資・金融サービス業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

## 5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

## (関連当事者情報)

前事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

### 1. 関連当事者との取引

#### (1) 兄弟会社等

(単位：千円)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金、出資金又は基金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社の子会社	㈱三井住友銀行	東京都千代田区	1,770,996,505	銀行業	%	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	3,703,669	未払 手数料	644,246
親会社の子会社	SMBC日興証券㈱	東京都千代田区	10,000,000	証券業	%	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	6,265,593	未払 手数料	890,935

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

#### 2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

投信の販売委託については、一般取引条件を基に、協議の上決定しております。

### 2. 親会社に関する注記

株式会社三井住友フィナンシャルグループ(東京証券取引所、名古屋証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場)

当事業年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

### 1. 関連当事者との取引

#### (1) 兄弟会社等

(単位：千円)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金、出資金又は基金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社の子会社	(株)三井住友銀行	東京都千代田区	1,770,996,505	銀行業	%	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	3,728,851	未払 手数料	863,159
親会社の子会社	SMBC日興証券(株)	東京都千代田区	10,000,000	証券業	%	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	5,578,226	未払 手数料	1,070,559

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

投信の販売委託については、一般取引条件を基に、協議の上決定しております。

## 2. 親会社に関する注記

株式会社三井住友フィナンシャルグループ(東京証券取引所、名古屋証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場)

### (1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)	当事業年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月 31日)
1株当たり純資産額	3,369.33円	2,510.93円
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失( )	17.09円	854.27円

(注) 1. 前事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

当事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)	当事業年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月 31日)
1株当たり当期純利益又は当期純損失		
当期純利益又は当期純損失( )(千円)	578,811	28,934,237
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益又は 当期純損失( )(千円)	578,811	28,934,237
期中平均株式数(株)	33,870,060	33,870,060

**独立監査人の監査報告書**

2021年6月15日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 羽 太 典 明 印指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 菅 野 雅 子 印指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐 藤 栄 裕 印**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三井住友DSアセットマネジメント株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの第36期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友DSアセットマネジメント株式会社の2021年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

**監査意見の根拠**

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

**財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

**財務諸表監査における監査人の責任**

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財

務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

**独立監査人の中間監査報告書**

2021年10月19日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 菅野 雅子 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 松井 貴志 印

**中間監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・年金プラン30の2021年3月9日から2021年9月8日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三井住友・年金プラン30の2021年9月8日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2021年3月9日から2021年9月8日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

**中間監査意見の根拠**

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

**中間財務諸表に対する経営者の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

**中間財務諸表監査における監査人の責任**

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。2. XBR Lデータは中間監査の対象には含まれていません。

**独立監査人の中間監査報告書**

2021年10月19日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 菅野 雅子 印指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 松井 貴志 印**中間監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・年金プラン50の2021年3月9日から2021年9月8日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三井住友・年金プラン50の2021年9月8日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間(2021年3月9日から2021年9月8日まで)の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

**中間監査意見の根拠**

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

**中間財務諸表に対する経営者の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

**中間財務諸表監査における監査人の責任**

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。



- ・不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。 2. X B R Lデータは中間監査の対象には含まれていません。

**独立監査人の中間監査報告書**

2021年10月19日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 菅野 雅子 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 松井 貴志 印

**中間監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・年金プラン70の2021年3月9日から2021年9月8日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三井住友・年金プラン70の2021年9月8日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間(2021年3月9日から2021年9月8日まで)の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

**中間監査意見の根拠**

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

**中間財務諸表に対する経営者の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

**中間財務諸表監査における監査人の責任**

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1．上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。2．XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。